

自由研究でグランプリ



亀山理沙子さん
(ゆうきが丘第4)

小学生の理科離れが叫ばれています。夏休みの自由研究で「松ぼっくり」をテーマに観察・研究し、第13回サイエンスグランプリの小学生の部で、東京電力グランプリを受賞した明治小学校5年生の亀山理沙子さん(栃木県代表)にお話を伺いました。

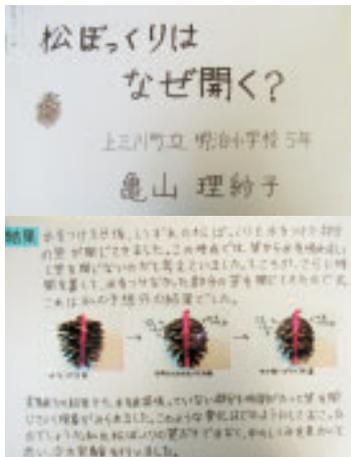
受賞した作品は、『松ぼっくりはなぜ開く?』と題した研究テーマです。きつかけとなつたのは、公園で拾ってきた松ぼっくりを洗面台に置いたところ、開いていたカサがいつの間にか閉じていたことに気がつきました。不思議に思つて両親と協力し研究。最初に温度の影響を調べるため冷蔵庫に、次にビニール袋を使用した湿度の実験、さらに洗面台に置いていたので水との関係を実験しました。水に入れた松ぼっくりはやがてカサが閉じること発見。カサを外し様々な実験をしたところ、種を守

今月の輝ける星

るためにカサを閉じたり開いたりすることにたどり着きました。研究の最後には、カサを閉じる仕組みを完全に解明できなかったので、機会があれば再度挑戦したいとこのことです。

この研究結果を、画用紙17枚にまとめて夏休みの研究として提出しました。亀山さんに受賞したときの感想を聞くと、「自分も家族も正直(受賞に)驚きました。」と話してくれました。研究に対して苦労した点は、自分の予想と結果が一緒にならず、研究結果をまとめるのに大変苦労したとのことです。

この研究から亀山さんは、松ぼっくりの一つ一つに大切な命が含まれていて、その命を守るための松ぼっくりの秘密について、知ることができました。皆さんも見方を変えて見てみると、様々な発見ができるかもしれませんね。



かみのかわ 四季の野鳥 キジ(雉子)(キジ科)

夕方の堤防を散歩していると、「ケンケン」という声と、続けて「ドドドッ」という羽音が聞こえてきました。繁殖期を迎えたキジのオスが、なわばりを主張しているのです。

キジは日本の国鳥でもあり、桃太郎の鬼退治では大活躍し、その功績も大きいはずですが、今では狩猟鳥の指定を受け、ハンターにつけ狙われる“悲運の鳥”です。

オスは真っ赤な顔(赤い部分は肉髯といい、繁殖期に大きく垂れ下がる。)と長い尾羽を持ち、紫色や緑色に光り輝く美しい鳥ですが、メスのほうは茶褐色に黒い斑点の典型的な保護色をしています。

繁殖は一夫多妻で、メスが地上に巣を作って10個前

後の卵を産み、ひとりで温めます。卵は24日ほどで孵化し、ヒナはすぐに親鳥について歩きだし、自分で餌を採ります。餌は、草の実や芽、昆虫、小動物など、雑食性です。

キジの古名は「きぎす」といいましたが、「きぎ」はその鳴き声から、「す」は「カラス・カケス」などと同様に鳥につく接尾辞です。

町内では鬼怒川の河川敷やその周辺の農地に多く見られ、鳥獣保護区や禁猟区が増えたことでよく目にするようになりました。

菜の花が咲き、キジが鳴く……。ふるさとの春の風景です。



地味な色合いのメス



なわばり内を見回るオス



ナズナやハコベの実も食べます



この印刷物は古紙配合率100%の再生紙と環境にやさしい大豆油インクを使用しています。